

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	都市建設部	
	課名	土木課	
	係名	管理係	
	記入者		電話(内線) 236

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	市道0222号線道路改良事業	(3) 事業の 優先度	A
(4) 総合計画での位置づけ			(6) 事業主体	市	
① 事業の区分	主要事業		(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	普通建設事業費(ハード事業)
② 施策コード	23101	(総合計画掲載ページ) 72 (ページ)	会計区分	一般会計	
基本目標(政策)	2 安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)		財源区分	国庫補助	
基本施策	3 便利で快適に移動できるまちづくり(道路・公共交通)		予算科目	款 8 項 2 目 3	
施策	道路ネットワークの形成		予算書上の 事業名称	市道0222号線道路改良事業費 (予算書 138 ページに掲載)	
施策内容	快適に移動できる道路の整備		(8) 事務分類	自治事務	
(5) 事業期間	開始	24 年 8 月から	根拠法令	道路法, 道路構造令	
	終了	30 年 3 月まで (力年)			

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
道路の利用者	通学児童の安全が確保出来るようになる。また、沿線住民の利便性が向上する。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
市道0222号線から市道3329号線までの未改良区間600mを幅員8mまで拡幅し整備する。 平成27年度 用地買収1,100㎡ 物件移転補償 6件 平成28年度 用地買収1,400㎡ 物件移転補償 9件 道路工事280m 平成29年度 道路工事320m	結城第一工業団地への通勤の車が多く、地元住民より危険であるため、拡幅要望がされていた。また、通学路合同点検においても通学児童が危険であるとして、対策箇所が上がっていた。

(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境, 市民ニーズ等) や市民・議会の要望, 意見等とそれに対する対応
 全国で登下校中の児童生徒が死傷する事故が相次いで発生したことから、小中学校の通学路緊急合同点検を行い危険個所の洗出しを実施し、必要な対策について関係機関で協議・改善を行うようになってきた。
 そこで、通学路の安全確保に向けた取組みを、国が重要事業と位置付け推進している。

3. 事業コスト

行政評価 実施計画	実績内容の評価	検討・改善	検討・改善内容を反映
● 予算内訳	実績額 (千円)	当初予算額 (千円)	計画額・見込額 (千円)
	26 年度	27 年度	28 年度
	29 年度	30 年度	
(1) 事務事業費			
事業費			
測量・補償調査委託	14,774	2,700	
用地買収・物件補償	5,204	55,460	
改良工事			
合計	19,978	58,160	
財源			
国庫支出金 (千円)	9,350	27,500	
県支出金 (千円)			
地方債 (千円)		20,200	
その他特定財源 (千円)			
一般財源 (千円)	10,628	10,460	
合計 (千円)	19,978	58,160	
補助・起債制度名	防災・安全交付金	防災・安全交付金 公共事業等債	

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称		単位	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）							
指標名	用地買収費	目標値	千円		55,460	38,000	
		実績(見込)値		5,204	55,460		
指標名	改良工事費	目標値	千円			50,000	60,000
		実績(見込)値					
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）							
指標名	進捗率(事業費ベース)	目標値	千円		84,575	177,575	239,575
		実績(見込)値		26,415	84,575	177,575	239,575
		達成率		11.0 %	35.3 %		
		目標値					
		実績(見込)値					
		達成率		%	%		

5. 事業評価

(1) 平成26年度の行政評価結果をうけて、平成26年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

補助対象となる工種は補助事業で行い、一般財源の支出をなるべく抑えるよう努めた。

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	通学児童の安全面を考慮すると必要性は高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	行政以外には実施できない事業である。
	手段の妥当性	A	妥当である	現在のやり方が一般的である。
効率性	コスト効率 人員効率	A	改善の余地はない	家屋移転等をなるべく行わないよう道路線形を計画した。
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	市民の利用度により、どちらとも言えない。
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	道路用地の買収に一部着手したのみで、拡幅工事には年数を要する。
進捗度	事業の進捗	A	順調である	計画通り、順調に進んでいる。

(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。

事業計画通りに進んでおり、引き続き用地買収・物件補償を行っていく。移転対象となる住居が2軒あるので、移転がスムーズに完了するように進捗管理を行っていく必要がある。

(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？

権利者が最良な移転を行うためにも、権利者の考える時間の確保が必要であり、早期の用地交渉を行うよう努める。

6. 事業の方向性判断

評価主体	27年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	改善・改革しながら継続 (成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)	注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	現状のまま継続 (改善・改革なし)	補助事業により順次事業を進める。
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。 事業の方向性については、課内で再検討し、意思統一を図りたい。